5 市民文化の振興

1 市民の自主的な活動の促進

〈目標〉

市民の文化芸術活動を支援するとともに、各種文化事業の開催により市民の自主的な文化活動の促進を図る。

〈取り組みの方向〉

多様なニーズに応じた文化芸術活動の発表及び鑑賞の場を一層充実するとともに、市民文化のさらなる発展のための環境づくりをする。

〈平成 22 年度の主な取り組み〉

⑴ 地域交流センター（アルカスホール）の整備

・寝屋川市駅東地区内の地域交流センター（アルカスホール）の開館に向けて準備を進める。

⑵ 文化振興条例の制定

・平成 22 年 4 月 1 日に文化振興条例を施行し、市民への周知に努める。また、条例に基づき文化振興会議を設置する。

⑶ 新寝屋川八景の周知・活用

・寝屋川市の魅力を再発見し紹介するため、平成 20 年度に選定した新寝屋川八景の周知・活用を行う。

⑷ 文化芸術活動の促進

・優れた文化芸術の鑑賞と発表の機会を提供し、市民の文化芸術活動を支援する。

〈平成 22 年度の取組実績〉

⑴地域交流センター（アルカスホール）の整備

平成 23 年４月の開館に向け、条例の制定・愛称の決定、指定管理者の選定、公有財産の購入、備品・物品の購入設置、駐輪場の開設、関係部局との調整などの必要な事務作業を推進した。

⑵文化振興条例の制定

①平成 22 年４月１日に施行した文化振興条例をわかりやすく解説したパンフレットを作成し、市民への周知に努めた。

②文化振興会議委員 10 人（２年任期）を委嘱し、本市の文化振興について「現状の把握」の課題から審議を開始した。

⑶新寝屋川八景の周知・活用

新寝屋川八景の啓発用パンフレットを作成するとともに、市のホームページ上に「新寝屋川八景デジタル・フォト・ミュージアム」コーナーを設け、市民からの投稿写真を掲載するなど、市民への周知に努めた。

⑷文化芸術活動の促進

①市民文化祭

市民に文化・芸術活動の発表の場と鑑賞機会を提供するために総合センターにて市民文化祭を開催した。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
ステージ出演者数	768 人	685 人	561 人
出展作品数	594 点	486 点	459 点
文化祭参加者数合計	1,362 人	1,171 人	1,020 人
入場者数	11,058 人	10,197 人	10,147 人

②寝屋川市美術公募展

アートプラザねやがわ事業と新進芸術家の発掘･育成事業(美術新人選抜展)を統合して、平成 22 年度より新規に寝屋川市美術公募展として実施した。多数の応募作品の中から、審査委員会で入選等の作品を決定したのち、市民ギャラリーにて展覧会を開催した。

	平成 22 年度
応　募　点　数	100 点
入　選　点　数	43 点
入　場　者　数	643 人

③学生音楽祭「ブラスの響き」

学生音楽祭を市民会館で開催し、市内のすべての中学校・高校・大学を対象に発表の場を提供した。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
参　加　校　数	23 校	22 校	21 校
出　場　者　数	832 人	825 人	772 人
入　場　者　数	1,268 人	1,152 人	1,308 人

④寝屋川音楽祭

市民に優れた音楽芸術の鑑賞と参加する機会を提供するため、市民会館にて「寝屋川音楽祭～クラシック ｉｎねやがわ８～」を開催した。

	平成 20 年度	平成 22 年度
出　場　者　数	242 人	214 人
入　場　者　数	983 人	821 人

※隔年で実施

⑤楽しもう囲碁・将棋

市民団体および地元商店街との協働で、寝屋川市駅前にてプロ棋士を招いて囲碁・将棋による市民参加イベントを開催した。

	平成 22 年度
参加・見学者数	1,200 人

⑥文化のまちづくり活動推進事業

地域交流センターの開館に先立ち、市民による文化活動を積極的に推進していく素地をつくるとともに、にぎわいを創出するため寝屋川市駅東地区を中心に各種イベントを実施し、地域交流センターの周知に努めた。

【「音と光のつどい」ミニコンサート】

出演者	開催日	開催場所	観客数
Human note	12 月　1 日	せせらぎ公園 ウッドデッキ	181 人
摂南大学　ニューオリンズ・ジャズクラブ	12 月　4 日	寝屋川市駅 デッキ下	324 人
ヒラタアキヒロ＆ 大阪しゃーないず	12 月 18 日	寝屋川市駅 デッキ下	298 人
寝屋川市音楽団	12 月 23 日	寝屋川市駅 デッキ下	375 人

【記念フォーラム】

第１部～　小説『坂の上の雲』で有名な作家司馬遼太郎の記念館館長である上村洋行氏による記念講演を開催した。

第２部～　大阪府立大学 21 世紀科学研究機構教授橋爪紳也氏をコーディネーターとして、５名のパネラーと「寝屋川らしさ」についてのシンポジウムを開催した。

内　容	開催日	開催場所	観客数
パネルディスカッション『考えてみよう！ワガヤネヤガワ。』	平成 23 年 2 月 6 日	市民会館大ホール	742 人

⑦市民ギャラリーの効果的・効率的な管理運営

市民サービスの向上等を図るため、引き続き指定管理者による管理運営を行った。

また、平成 22 年度で指定期間が終了することから、次期指定管理者の募集、選定などの作業を行った。

【市民ギャラリー利用状況】

	利用団体数	入館者数
平成 20 年度	42 団体	21,498 人
平成 21 年度	44 団体	21,013 人
平成 22 年度	47 団体	23,532 人

⑧文化活動団体の支援

文化連盟（会員数 1,144 人）や音楽連盟（会員数 447 人）等と連携し、さらなる組織強化を図る中で自主運営の促進に努めた。具体的には、市民管弦楽団の定期演奏会への支援をはじめ、文化連盟創立 60 周年記念事業の実施を支援した。

また、連盟には所属しないが、文化活動を行うさまざまな団体への支援を行った。

〈点検・評価〉

⑴**地域交流センター（アルカスホール）の整備**

・地域交流センター（アルカスホール）の開館にむけて、指定管理者を公募し、選考委員会で公正な選定など、必要な手続きを滞りなく実施した。

⑵**文化振興条例の制定**

・市民に周知されるよう、パンフレットや市の広報・ホームページなどでの啓発をするとともに、条例に基づく文化振興会議を発足し、審議をスタートすることができた。

⑶**新寝屋川八景**

・パンフレットの作成や、ホームページの活用等により、幅広く市民の周知を図ることによって、地域文化の再発見・再認識に寄与することができた。

⑷**文化芸術活動の促進**

・毎年実施する市民文化祭や学生音楽祭を開催するとともに、にぎわい創出のために、周辺商店街との協働により、イベントを実施し、市民に優れた文化芸術の鑑賞や発表の機会を提供することができた。

・平成 23 年度からの市民ギャラリー指定管理者を選定し、効果的・効率的な管理運営を進めた。

・文化活動団体の登録者数は減少しているが、登録せずに多種・多様な文化活動を少人数グループで楽しむ傾向が見られる。今後、市民の文化活動の実態を把握し、市民の文化芸術活動の推進のため、支援・協働等の方策を検討する必要がある。

２　文化と歴史のまちづくり

〈目標〉

文化財に対する理解と愛護意識を高め、市民の郷土愛を育むことにより、文化と歴史のまちづくりを進める。

〈取り組みの方向〉

文化財の保存、管理、公開、活用を一層進めるとともに、出土遺物の整理をする。

〈平成 22 年度の主な取り組み〉

⑴ 文化財の収集・保存及び公開・活用

・池の里市民交流センターにおいて遺物等を一括保存管理し、系統的に整理を進めるとともに、それらの成果を埋蔵文化財資料館でわかりやすく企画展示を行う。

⑵ 文化と歴史のネットワークづくりの推進

・歴史見て歩き講座や歴史シンポジウムなどを充実するとともに、文化財などを散策ルートで結び、市民に憩いとやすらぎの場を提供する。

〈平成 22 年度の取組実績〉

⑴文化財の収集・保存及び公開・活用

①開発に先立って、埋蔵文化財包蔵地の試掘（７件）・立会調査（62 件）を実施するとともに、出土した遺物の整理を行った。

②５月より埋蔵文化財資料館で企画展示「新発見の歴史遺産」を開催し、発掘調査により市内の遺跡から見つかった資料の展示公開を行った。

【埋蔵文化財資料館入館者数】

平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
2,676 人	3,133 人	3,137 人

③池の里市民交流センター考古学資料展示室において、遺物を年代順に展示し、市民に公開した。

④小・中学生を対象とした「ジュニア考古学講座」を８月に開催し、一般市民を対象とした「出前講座」にも出講することによって、各世代のニーズに応じて郷土の文化財への認識を深めてもらうよう努めた。

【各種講座】

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
実　施　回　数	13 回	９回	８回
延べ参加者数	504 人	176 人	168 人

⑵文化と歴史のネットワークづくりの推進

歴史見て歩き講座・シンポジウムを企画・実施した。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
歴史見て歩き講座実施回数	３回	３回	３回
歴史見て歩き講座参加者数	171 人	107 人	97 人
シンポジウム参加者数	117 人	136 人	99 人

〈点検・評価〉

⑴文化財の収集・保存及び公開・活用

・市内遺跡の発掘調査の成果について、埋蔵文化財資料館での企画展での遺物の公開や、歴史シンポジウムを利用することにより市民に公表することができた。

⑵文化と歴史のネットワークづくりの推進

・池の里市民交流センター考古学資料展示室の利用状況は正確に把握できてないが、入館者は減少傾向にあり、今後は、市民への PR 活動の充実とともに、学校教育をはじめ各種団体と連携を図り学習活動の場としての活用をめざす。

・歴史見て歩き講座や歴史シンポジウムの開催により、市内に点在する史跡や文化財を紹介することで、市民の郷土文化を大切にする愛護意識の高揚を図ることができた。